

氏名(本籍)	と 後	とり 藤	まさ 昌	し 司
学位の種類	医	学	博	士
学位記番号	医	第	847	号
学位授与年月日	昭和49年2月20日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当			
最終学歴	昭和42年3月24日 東北大学医学部医学科卒業			
学位論文題目	食道癌の細胞学的診断			

(主査)

論文審査委員 教授 山形 敏一 教授 笹野 伸昭

教授 佐藤 春郎

## 論文内容要旨

著者は食道癌の細胞診成績ならびに食道癌の塗抹細胞像を検討し、食道癌診断における細胞診の診断能ならびに食道扁平上皮癌細胞の細胞学的鑑別診断に関して報告している。

すなわち、食道癌細胞診の診断能はきわめて高く、細胞診陽性率は細胞の採取法、癌の占居部位、深達度および大きさにほとんど左右されない。集検用食道細胞診ゾンデ法は、食道集団検診のスクリーニングとして十分に活用し得る方法である。

また、食道扁平上皮癌細胞の塗抹像は核の増大、大小不同性、核・胞体比の異常増大、核濃染、核縁の濃染肥厚、濃染顆粒状および小塊状クロモセーター、核小体径の増大、核形の不同性と核輪郭線の不整、胞体の縮小化または巨大化と大小不同性、赤（橙）色または橙（黄）色に濃染する胞体、特殊型細胞形の出現、などの特徴がある。したがって、これらの所見を総合すれば、扁平上皮癌細胞の判定は可能である。さらに、腺癌細胞との鑑別に関しては、腺癌細胞に比べて、核・胞体比の増大は少ない。濃染顆粒状および小塊状クロモセーターの出現率が高率である、偏在核の出現率が低く、その程度も軽い、胞体の増大と大小不同性が著しい、特殊型細胞形の出現、橙（黄）色または多色で濃染する胞体の出現、核周明暈と胞体の層状構造、胞体内空胞の欠如などの所見があるので、これらの総合所見から腺癌細胞との鑑別が可能である。

## 審査結果の要旨

著者は食道癌の細胞診成績ならびに食道癌の塗抹細胞像を検討し、次のような結果を得ている。

1) 食道癌細胞診の診断能はきわめて高く、細胞診陽性率は細胞の採取法、癌の占居部位、深達度および大きさにほとんど左右されず、また集検用食道細胞診ゾンデ法は、食道集団検診のスクリーニングとして十分に活用し得る方法である。

2) 食道扁平上皮癌細胞の塗抹像は核の増大、大小不同性、核・胞体比の異常増大、核濃染、核縁の濃染肥厚、濃染顆粒状および小塊状クロモセーター、核小体径の増大、核形の不同性と核輪郭線の不整、胞体の縮小化または巨大化と大小不同性、赤（橙）色または橙（黄）色に濃染する胞体、特殊型細胞形の出現などの特徴がある。

3) これらの所見を総合すれば、扁平上皮癌細胞の判定は可能であり、腺癌細胞との鑑別に関しては、腺癌細胞に比べて、核・胞体比の増大は少ないこと、濃染顆粒状および小塊状クロモセーターの出現率が高率であること、偏在核の出現率が低く、その程度も軽いこと、胞体の増大と大小不同性が著しいこと、核周明暈と胞体の層状構造、胞体内空胞の欠如などの所見があることで腺癌細胞との鑑別は可能である。

したがって、本論文は学位を授与するに値するものと認める。